

## 【北野病院が今取り組んでいる医療（トピックス）】

事務統括部長 村田 庄司

### 1. 目的

当院がここ数年、患者さん目線の医療を提供すること即ち診療の質の向上を目指し取り組んでいるので次のとおり紹介する。

### 2. 具体的内容

#### 1) 救急診療

24時間365日「断らない医療」を目指すこととした。救急診療において、全職員が患者さんの救急処置にあたる。時間内においては救急専属医（日本救急医学会指導医）が中心となり、初期の診療を担当し、的確な診療を行っている。夜間・休日などの時間外は、内科系・外科系医師、脳神経外科医、循環器内科医、産婦人科医、小児科医、麻酔科医などが当直を行い対応している。

この取り組みにより、救急の不应需率（断る）が33.1%（2012年度）から26.3%（2014年度）へと断る件数が少なくなっている。どうしても断るケースとしては、救急が幾つも重なった場合、専門の診療科医が居なかった場合などである。今後も出来る限り断らない医療を努めていく。

#### 2) チーム医療（複数の医療専門職が連携して治療やケアにあたる）

一人の患者さんの治療にあたり異なる職種 of 医療スタッフが連携して、各々の専門的スキルを發揮することに力を注いでいる。

医療が高度になっても1診療科だけでは対処できない複雑な病態とならされている。入院患者が増加し、医療安全面でもリスクが高い状況である。

そこで、主治医などがチームによる治療が必要と判断した場合は、短期プロジェクトチームの治療要請を事務局に要請すると関係診療科の医師や看護師、コメディカルによるチームが編成される。

初回ミーティングにて病態や今後のケア・治療方針、役割分担を決め治療が開始される。診療科の枠、壁に囚われず内科系医師、外科系医師、診療支援系医師が協働し、最善・最良の医療を提供する体制を構築した。



### 3) 先進医療の実施

#### ① 「d a v i n c i」による低侵襲な手術を実施

2013年6月に導入し、2014年11月までに泌尿器科では前立腺がん手術を16例、消化器外科では4例、婦人科では2例を実施している。

体への負担が少なく回復も早く、これから益々増加するものと考えている。

#### ② 「鼓膜再生療法」にて確実に聴力を再生

手術をせずに破損した鼓膜を再生し、聴力を取り戻す画期的な治療法であり、患者さんから大変好評である。

破損した鼓膜に栄養因子をつけたゼラチンスポンジをのせ特殊な接着剤でフタをして3週間すると鼓膜が再生される。

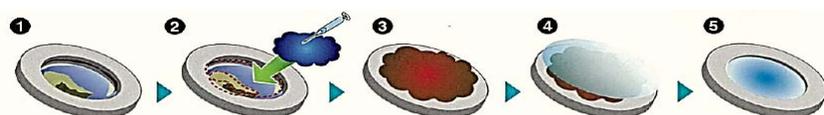
#### ③ 脊髄損傷「単核球細胞移植」で運動機能を回復

脊髄を交通事故やスポーツで損傷すると手足が動かず治療法が無いが、厚生労働省の承認を得て細胞を用いた再生治療を実施している。

「d a v i n c i s i」



「鼓膜再の流れ」



「単核球細胞移植」

### 4) がん化学療法

外来に26床を有する化学療法室を設置し、腫瘍内科医師を中心に専門看護師、薬剤師が一丸となって安心・安全な治療に取り組んでいる。



## 5) 第2回災害対応訓練を実施

11月16日、大阪市を震源地とする巨大地震が昼間の時間帯に発生し、院内火災が発生、停電との想定で、外来診療・手術・検査の中止などの調整、外部からの被災者受入トリアージ訓練を実施した。患者役、医療者役など職員総勢230名による大規模な内容で、火災発生による通報・連絡、患者避難誘導、消火活動、災害対策本部設置、外からの被災者受入訓練と域外搬送、現地対策本部設置、北消防署によるハシゴ車からの避難など、本番さながらでリアルな引き締まった訓練を実施した。その後は、炊き出しを食しながら反省会を行った。今後も職員の誰もが災害訓練を経験し、有事に備えられるよう参加者を調整し、地域における災害拠点病院を目指す考えである。



今後も地域の医師会医師並びに医療者との連携強化を図り、地域住民市民が求められる期待される医療の提供を目指す。